

エコツーリズムの実施によって、アフリカの自然と人間との共生を目指す

ロルダイガ研究所 The Lolldaiga Institute (TLI)

ロルダイガ牧場は70年以上にもわたって、ロルダイガマウンテン生態系のもとで家畜を飼育し、100を超えるダムを建設し、森を守り、フェンスを建てて、豊かな生態系を守ってきました。30年にも及ぶケニア経済の衰退は、インフラの老朽化、市場の縮小を招き、治安も極めて不安定となっています。牧場をとりまく地域でも貧困に苦しむ人々は増加の一途をたどっています。牧場の財政は困難を極め、現在、収入の20%を自然保護や環境保全型の開発に費やしていますが、このままでは周辺住民の要望に応えられなくなりつつあります。牧場の存続ができなくなれば、ロルダイガマウンテン生態系そのものが、その周囲の自然とともに荒廃してしまう危機に直面します。今、援助を受けて、手を打つことができなければ、積み上げて来た過去の努力のすべてが水の泡になってしまいかねません。



》設立の経緯

地元と直結し最も効率よく自然保護や環境保全型の村落開発を勧められる立場を生かし、専門家と社会科学などの専門知識を積極的に交換しながら、今後更に踏み込んだ環境保全を前提とした地域開発を行なっていくため、1998年に「ロルダイガ リサーチプログラム」を実施、2004年に非営利法人(NPO)としてロルダイガ研究所(TLI)が設立されました。

》目的と活動

以下の活動を通して、野生動物と人間の共存を実現していきます。

- ロルダイガ・ファームハウスを拠点に、乾燥地帯の自然保護と牧畜、アフリカ自然浴で心に安らぎを与えるエコツーリズムの実施
- 環境配慮型村落開発と人の健康と家畜衛生啓蒙普及
- 村落参加型社会経済学、生態学、熱帯畜産および農業とヒューマンセキュリティー研究の実施・体験・見学
- 学生および地元民の交換体験学習



ー経験がありますー

1930年代から70年以上にわたり、この地で自然に配慮した持続可能な土地利用に取り組んで来ました。何がこの土地に合っているのか、そうでないのか、どんな技術が必要とされているかを知っています。

ー知恵がありますー

周りには様々な土地利用を実践する集落がありますが、人々は貧困にあえいでいます。長く地域に根ざし、地元の文化や価値観を深く理解しているからこそ、研究成果を住民の暮らしに役立てる提案ができます。

ロルダイガ研究所だから、できること

ー専門知識がありますー

外部の専門家や研究機関と積極的に交流しています。こうしたリソースと連携することで、自然保護や環境保全型の村落開発をすすめることができます。

ーきずながありますー

周囲の集落とのあいだに長年にわたる付き合いがあるため、フィールドでの調査・研究、フィードバックのためのワークショップなどに地域住民の協力・参加を得ることができます。

門平研究室は、ロルダイガ研究所と共同研究を始めます